

よろず相談・汐入診療所待合室だより

よ・ろ・し・お

2021年1月号 (Vol.13)



発行：汐入診療所 荒川区南千住南千住8-10-3-101 TEL 03-3807-2302

◇子宮頸がんワクチン（ガーダシル®）を開始◇

汐入診療所では1月より子宮頸がんワクチン（ガーダシル®）の取り扱いを開始します。



日本では毎年約10,000人の女性が新たに子宮頸がんと診断され、約2,800人が子宮頸がんによって亡くなっています。子宮頸がんは20代後半から30代が罹患年齢のピークで、20～30代の女性では1番多いがんです。子宮頸がんワクチンを受けることで子宮頸がんや前

がん病変等に対する感染予防が期待できます。

定期接種の対象者は小学校6年生～高校1年生相当の女子、標準的な接種時期は中学1年生となります。定期接種に該当しない女性も、任意接種での予防接種が可能です。同じワクチンを3回接種することが十分な予防効果を得るために必要となります。ぜひこの機会に接種を検討しましょう！



子宮頸がんワクチン（ガーダシル®）費用 ※予約制、希望者は事前に連絡をお願いします

定期接種：無料（小学校6年生～高校1年生に該当する女子が対象となります）

任意接種：組合員 16,500円、未組合員 18,700円 ※1回あたり

※計3回接種：基本的に2回目は初回接から2ヶ月後、3回目は初回接種から6ヶ月後

1,000円で医療生協に加入すると同居する家族は全て組合員の料金で接種可能です。

～子宮頸がんワクチンQ&A～

Q. 子宮頸がんの原因は？

A. 子宮頸がんの発生はヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスが関わります。HPVは200種類以上の型がありますが、その中で子宮頸がん全体の50～70%をHPV16型・18型の2種が占めます。

Q. 子宮頸がんワクチンの効果は？

A. 子宮頸がんワクチンでは、HPV16型・18型の2種に対応します。（ガーダシル®では性器の良性病変である尖圭コンジローマの原因となるHPV6型・11型にも対応します。）HPV感染を予防することによって、間接的に子宮頸がんやその前がん病変（異形成、子宮頸部以上皮内腫瘍）を患う人や子宮頸がんによって亡くなる人をできるだけ減らすことが証明されています。

Q. 何歳まで受けられますか？

A. ガーダシル®では、9歳以上で接種が可能となっています。上限はありませんが、米国では26歳までの女性に接種が推奨されています。海外の報告では、接種年齢が45歳まではワクチンの効果が認められています。HPV感染のリスクとなる性交渉を経験する前の接種が望ましいとされています。

Q. 子宮頸がんワクチンを受ければ、子宮頸がん検診を受けなくても良いですか？

A. 子宮頸がんはワクチンの接種で100%予防できる訳ではありません。ワクチン接種前に感染しているHPVについては効果がなく、またワクチンで全ての型のHPVへの感染予防ができる訳ではないためです。子宮頸がんワクチンを接種していても、20歳になったら定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。

Q. 子宮頸がんワクチンの副反応は？

主な副反応として発熱や接種した部位の腫れ、注射による痛み等が報告されています。子宮頸がんワクチン接種後に報告された、広範囲に渡る痛み・手足の動かさにくさ・不随意運動といった「多様な症状」については、国内外において多くの解析が慎重に行われましたが、ワクチンが原因であるという因果関係を証明する科学的・疫学的根拠は示されていません。接種後に何らかの症状が起きた方のための診療相談窓口も都内で5か所に整備されています。



～汐入診療所からの受診についてのごお願い～

- ・発熱や風邪症状等で来院の方は屋外での診察となります。
- ・事前に電話で連絡の上、暖かい格好で来院下さい。
- ・診療所内でのマスク着用、入り口での手洗い・消毒をお願い致します。



※現在院内感染予防のため、発熱等がある方の送迎はお断りさせて頂いております。
診療所での院内感染予防のため、御了承のほどよろしくお願い致します。

よろず相談・汐入診療所待合室だより「よ・ろ・し・お」主なバックナンバー

2020年1月号 「風しん抗体価検査」 2月号 「大腸がん検診」 6月号 「骨密度」

8月号 「熱中症予防」 9月号 「おすすめ予防接種」 10月号 「インフルエンザワクチン」

12月号 「新型コロナPCR検査を開始」

※バックナンバーを希望の方は受付まで